



### 高等部 2年3組 家庭基礎「食生活のマネジメント」

#### 単元の目標

- 生活の中で食事が果たす役割を理解し、健康的な食事の整え方が分かる。**[知]**
- 栄養バランスについて考え、一食分の献立を立てる。**[思]**
- よりよい食生活を送るために自分の食生活と向き合おうとしている。**[学]**

#### 教科の見方・考え方

家族や家庭、衣食住、消費や環境の協力・協同、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点。よりよい生活を営むための工夫。

#### 単元シートを使った事前検討より

- より実態に合った将来の生活に結びつく学習内容に。教科と自立活動のバランスは？
- 調理実習に結びつけるための本時とのつながりを検討
- 予算についての考えを学習内容に組み入れるか検討

#### 児童生徒の学びの姿

##### 対話的な学び

- 自分の選んだメニューとAさんBさんが選んだメニューを比べる→自分の選んだメニューにも足りない栄養(野菜)があることに気がついた。(★考えを比較)

##### 主体的な学び

- 「コンビニで昼食を選ぶ」という場面設定のわかりやすさ→無駄話をせず集中(★学習課題の設定・提示)

##### 深い学び

- 前時までの学習を板書で確認。栄養の視点から、Aさんへのアドバイスとして野菜を付け加えることを手紙に書く。→前時までの学習を思い出し、言葉遣いに気を付けて表現した。(★知識・技能を活用 ★自立活動の視点)
- ワークシートへ記入し、自分で説明する。→自分の考えを整理しながら説明。(★自分の考えを形成 ★自分の思いや考えを結びつける)

#### 授業研究会から(指導助言、課題、改善点)

- 本校高等部教育課程の編成では家庭科基礎を多く配当し、より生徒の日常生活、実態や実情に合わせた実践的な指導内容に重点を置いている。今回の題材も生徒の実情に合っていた。障害特性に合わせた指導方法の工夫がされていた。指導案にもっと表現してほしい。
- ◎生徒が学習内容を理解し、集中して取り組める学習課題の設定だった。学習の積み重ねを板書に示したことで、既存の知識を活用できていた。今後も多様な意見を比べる場を設定していく必要がある。
- ◎△予算について触れながらも今回は栄養に重点を置いたことが、生徒の特性に合っていた。予算を考える時間をもう少し減らし、AさんBさんのメニュー両方を取り上げると栄養についてもっと考えられ、活動量の確保になっただろう。見えにくさに対応した教材の工夫も必要である。

#### 題材を通しての成果と課題

- 調理実習で「レンチン味噌ラーメン」を作った。生徒からレシピがほしいと要望があり、家でも挑戦しようとしている。生徒の「家事スキルをアップしたい」という願いの実現に近づける実践となった。
- 板書の工夫が効果的だった。見えにくさの実態を把握し、今後も対応していきたい。
- 悪い例を提示し、自分の献立で野菜が足りないことに気付いた。今後も、様々な考え、比較検討できる場の設定を準備したい。考えるポイント(栄養バランス、カロリー、金額等)を示すことで、視点が広がるのではないかと考える。